

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 1/6

<総括>

出題数 現代文 1題・古文 1題・漢文 1題

試験時間 105分

吃音などの障害を持つ意味の豊かさについて論じた文章からの出題。昨年と比べて文章量が減少し、内容も比較的読みやすいものだった。設問は、漢字の読み書き、記述問題、選択肢問題に加え、昨年には出題されなかった、抜き出し問題と段落分けの問題が出題された。記述問題は昨年より設問数、記述量ともに減少した。全体としての難易度は昨年と同様である。

<本文分析>

| | |
|--------------|---|
| 大問番号 | □ |
| 出典 (作者) | 「豊かな弱さのために」(伊藤亜紗) |
| 頻出度合 ・的中等 | 普通 |
| 分量 前年比較 | 分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 昨年は4128字、今年は3453字で675字減少 |
| 難易 前年比較 | 難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化) |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|-----------|---------|-----|---|
| □ | 評論 | 問一 | 漢字の読み書き | 標準 | 特に難しいものはない。 |
| | | 問二 (1) | 客観 | やや易 | 傍線部を含む第4段落から第6段落までを、選択肢と照らし合わせればよい。 |
| | | (2) | 抜き出し | やや易 | 設問の条件を正確に踏まえれば容易に見つかる。 |
| | | 問三 | 記述 | やや難 | 設問で指示されている「交差性」という言葉を用いて傍線部に対応する内容を説明するのがやや難しい。 |
| | | 問四 | 抜き出し | 標準 | 傍線部を含む段落の3つ後の段落に該当する一文がある。傍線部との対応を丁寧に確認する必要がある。 |
| | | 問五 | 客観 | 標準 | 傍線部の内容が過不足なく説明されているものを選ぶ。 |

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 2/6

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|-----------|------|-----|---|
| | | 問六 (1) | 記述 | 標準 | 傍線部の文脈を正確に踏まえて解答を作成する。 |
| | | (2) | 記述 | 標準 | 傍線部の文脈を正確に踏まえて解答を作成する。 |
| | | 問七 | 段落分け | 標準 | 筆者の挙げる事例と、対比の展開に着目して本文全体の構成を捉えればよいが、やや決定しにくい。 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 3/6

<総括>

| | | | |
|-----|--------------------|------|------|
| 出題数 | 現代文 1題・古文 1題・漢文 1題 | 試験時間 | 105分 |
|-----|--------------------|------|------|

平安時代の作り物語『源氏物語』からの出題であった。名古屋大学では作り物語からの出題は稀である。文章量は、昨年と比べて減少し、本文のおおまかな状況はつかめたかと思われる。ただ、現代語訳の問は、何を、どのように補うべきか、判断に悩んだ受験生も多かっただろう。設問は、現代語訳が5箇所(そのうち2箇所は和歌)と文法1問であった。現代語訳のうち4箇所は、言葉の補いが必要であり、和歌の現代語訳の1箇所は、初めて空欄補充形式が出題された。文法問題は、今年も品詞分解を問う形式で出題された。なお、説明問題や文学史は、出題されなかった。

<本文分析>

| | |
|--------------|---|
| 大問番号 | 二 |
| 出典 (作者) | 『源氏物語』葵巻(紫式部) |
| 頻出度合 ・的中等 | 稀 |
| 分量 前年比較 | 分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は1230字、今年は905字で325字減少。 |
| 難易 前年比較 | 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) |

<大問分析>

| | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|---|------|----|------|-----|--|
| 二 | 作り物語 | 問一 | 記述 | 標準 | 品詞分解の問題。動詞、助動詞を文法的に説明する。 |
| | | 問二 | 記述 | 標準 | 現代語訳の問題が3問。3問とも重要単語、助動詞、助詞などを正確に訳出したうえで、人物や内容の補い、指示内容の具体化などをし、文脈に合うように整えることが大切である。特に、反実仮定の助動詞「まし」、副助詞「さへ・だに」の訳出や補いに注意する。 |
| | | 問三 | 記述 | 標準 | 和歌の現代語訳の問題。直前部「空のみながめられたまひて」の【注】の引歌に注目して訳出する。 |
| | | 問四 | 記述 | やや難 | 和歌の現代語訳の空欄補充問題。「ふち」に「藤」と「淵」が掛けられていることに気づく必要があった。 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要古語・文法の知識を基礎とした現代語訳の力をつけることが、大切である。その際、逐語訳だけでなく、主体の補いなどに注意を払い、わかりやすい現代語訳になるよう工夫することが必要である。また、和歌に関する問題は頻出である。現代語訳、心情や具体的内容を把握する練習に加えて、和歌修辞や比喻表現の理解も深めておきたい。今年はお題されなかったが、要約・説明問題は、お題されると記述量が多いので、実際に書いてまとめる練習を積んでおくこと。文学史もお題されることがあるので、対策を怠らないこと。過去の問題を解いて名古屋大学の出題形式に慣れておくことよい。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 5/6

<総括>

| | | | |
|--|--------------------|------|------|
| 出題数 | 現代文 1題・古文 1題・漢文 1題 | 試験時間 | 105分 |
| <p>本文は、『顔氏家訓』の、身分の低さから書の才能を軽んじられていた人物が、評価されるようになったという話である。設問数は昨年の7問から6問になった。語の読み・現代語訳・書き下し文・150字の要約問題が問われており、昨年は3問あった説明問題は出題されなかった。問六の150字で文章の内容を要約する問題は、ポイントを整理して要領よくまとめるのが難しい。</p> | | | |

<本文分析>

| | |
|--------------|--|
| 大問番号 | 三 |
| 出典 (作者) | 『顔氏家訓』「慕賢」(北齊・顔之推) |
| 頻出度合 ・的中等 | 稀 ※『顔氏家訓』は頻出 |
| 分量 前年比較 | 分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は247字、今年は191字で56字減少 |
| 難易 前年比較 | 難易 (易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化 |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|----|------|-----|--|
| 三 | 随筆 | 問一 | 記述 | 易 | 語の読みの問題。「耳(のみ)」「頗(すこぶる)」「殊(ことに)」は基本的な語。 |
| | | 問二 | 記述 | 標準 | 書き下し文の問題。使役形「令—」と慣用句「以為—」の用法がポイント。 |
| | | 問三 | 記述 | やや易 | 解釈の問題。「丁君十紙」と「王褒数字」を比較している点をとらえる。 |
| | | 問四 | 記述 | 標準 | 書き下し文の問題。否定語「不」と受身形「為—所—」、「遂」「称」「亦」の語に着目。「—は、是れ—なり」という形にも注意。 |
| | | 問五 | 記述 | やや易 | 解釈の問題。「軽」と「不可得」の目的語を補うことに注意する。 |
| | | 問六 | 記述 | やや難 | 要約(150字)の問題。最初低かった「丁覬の書」に対する評価が、後に高くなったことを軸にまとめる。 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要語や句形を問う問題は必ず出題されるので、これらの基礎知識に習熟すること。250字を超える長文が出題されることもあるので、日頃から長文を数多く読むように心掛けたい。現代語訳、書き下し文、内容・理由説明の問題は、二次対策用の問題集や過去問などで訓練しておくのがよい。150字で記述させる問題は毎年出題されているので、その対策として漢文を読んで要約する練習を心掛けるとよいだろう。